

【知事臨時記者会見】 8月12日

<ダブルの危機>

知事／大雨への警戒とコロナ対策というダブルの危機に直面するお盆の時期を、どう乗り切っていくかについてお話ししたい。

まず、大雨警報のなか現場の消防団や地域の皆さん、コロナ対策に関わる医療従事者の皆さんに心から感謝申し上げます。

<大雨への警戒>

嬉野、佐賀市駅前中央、白石では、降り始めから12日12時までに200ミリ以上の総雨量となった。対馬海峡に前線があり、これから3日、4日間は降り続くと予想される。

現在、レベル4の避難指示が5市町に出ている。今後、前線が上がったり、下がったりと移動を繰り返すと予想される。一旦、雨が止んでも警戒を怠らないでほしい。

大雨の早期注意情報と予想雨量

気象台の発表によると、14日12時までの24時間の予想雨量は、200～300ミリ。15日まで広い範囲で大雨警報が発表される可能性が高い。また、広い範囲に警戒レベル4相当の土砂災害警戒情報などを発表するとのこと。雨だけでなく、土砂災害への警戒をお願いする。

大雨による災害の留意事項

中小河川は、大雨が降ると短時間に急激に水位が上昇する。4年前、朝倉地域に線状降水帯が次々にかかり、甚大な被害がでた。

大河川では、水が堤防を越えたり、堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水し、大きな被害となる。全国的に多発している。

2年前の佐賀豪雨は、中小河川から大きな河川へのポンプアップができず浸水した。さまざまな浸水被害を想定しなければいけない。

崖崩れや土石流の発生を確認してから避難することはできない。熱海の土石流のように、土の中に雨水が蓄積し崩落する場合がある。雨が降り止んだからと安易に戻らず、警戒をお願いする。

警戒レベル4までに危険な場所から全員避難

避難指示が出た際の避難行動のおさらいをする。

- ・避難場所への避難
- ・避難場所へ行くことが危険な場合は、垂直避難

- ・安全な親戚や知人宅への避難
- ・安全なホテル・旅館への避難

<コロナ対策>

佐賀県の感染者数は、今日 89 人と過去最高の数字となった。感染者の半数が 20 代以下。最近の傾向は、若い家族の全員が感染したり、仕事でいろいろなところへ往来する現役世代に広がったりしている。

ワクチンを 2 回接種した 65 歳以上の年代からの感染者は、ほぼいない。65 歳未満の 2 回接種率は約 15%。この数字でも全国 3 位。接種率の少なさが、全国的に若い年代に感染者が多い理由かもしれない。

また、今日の感染者の半分は唐津市。福岡に近い地域では、最大限の警戒をお願いする。福岡県の本日の感染者は 1,040 人で過去最多。長崎県、鹿児島県も過去最多。九州全体が厳しい状況にある。

佐賀県でも県境を越えての行動から家族や職域へと感染が広がっている。今までのように飲食店でクラスターが発生するのではなく、あらゆる場面でいろんな形で感染拡大している。家族単位で感染する事例が多いので、家族の中に持ち込まない工夫を考えていきたい。

89 人の内訳は、既陽性者関連が 42 人、感染経路不明の新規感染者が 47 人。現場の皆さんが 42 人を丹念に調査している。それゆえ、既陽性者関連の感染者数は増える。

今後、数字が 3 桁になることも想定し、その先を考えなければいけない。

直近 1 週間の人口 10 万人当たりの感染者数

沖縄県が一番多く、次に東京都。それから九州全体が引きずられるように上がっている状況。なかなか数字が下がる兆候が見られず悩ましい。

病床使用率

本県のコロナ対策の最大のミッションは、救急対応や通常診療体制を維持すること。救える命を救えるかどうかは、病床使用率にかかっている。これまで 2 回の危機を乗り越えてきたが、今後、50%を超えた場合を考える必要がある。

この段階で、さまざまな施策を検討する必要がある。これまでの 2 回の危機は、東京都や大阪府が下がるめどが立って全国が鎮まってきた。現在、緊急事態宣言下でも下がる心配がなく、出口が見えない状況だ。時短措置などの施策メニューが、感染者を下げる実効性があるのか危惧している。

一番効果的な方法は、県民の皆さんの意識ある行動。ここ数日間が正念場。オール佐賀・チ

ーム佐賀で、皆さんの行動によってこの難局を乗り越えましょう。

今日から15日までのお盆の過ごし方

大雨による災害、対コロナ医療資源確保のため、チーム佐賀・オール佐賀で大きな山場を乗り越えましょう。

- ・危機が迫る前に早めに避難
- ・外出を自粛し、自宅等で過ごしてください
- ・久しぶりの友人や親戚との会食・会合は避けてください

大雨への警戒とコロナ対策、2つ申し上げたが、まずは大雨という命の危機に向き合うことが第一義。次に、外出を控えて自宅で過ごす。お盆に久しぶりの友人、親戚との会食や会合では、マスクを取って話したり、飲食することになる。そのような状況で、感染が広がっている事例が多い。県外の結婚式で感染した事例もある。

感染する場合には、感染するなりのリスクがある。上記の3つを意識するよう、ご協力をお願いします。

【記者からの質問】

<大雨と新型コロナウイルス感染症について>

STS／県内の感染者が増える中、避難所へ行くことをためらう人に対し呼びかけを。
知事／県民の皆さんが、コロナを恐れるあまり、避難行動をとらないことを私は恐れている。まずは、大雨に関する土砂災害や水害から避難しないといけない。市町では、避難所のコロナ対策をできる限り施している。

今回は、県民の皆さんへ迫る大雨の危険とお盆の時期のコロナ対策のお願いを説明した。

時事通信／県が外出自粛要請をするのは初めてか。

知事／昨年、緊急事態宣言のところに要請した。新型コロナウイルスに関し、全国的に知見がなかったころのこと。今回は、できる限り外出を控え、感染を食い止めたい。

時事通信／「お盆の過ごし方」のところで、「久しぶり」という表現を「お盆の帰省で他県から来た人」「他県での結婚式などの」と付け加えてもいいか。

知事／このメッセージをその通りに実行してもらえとは思っていない。ただ、ここに書いていることで、少しでも気をつけてもらいたい。本来、家族やふだん一緒にいる人でお盆を迎えてほしいが、もし行き来する場合は、マスクの着用や会話を控えるよう、できる限り感染しないように対策してほしい。そうすることで、感染のリスクが違ってくる。

西日本新聞／感染者数が過去最多を更新した。県内の感染ステージはどれぐらいか。

知事／ステージ3に近づいている。

西日本新聞／2.5ぐらいなのか。

知事／2.85のような印象。なんとか抑えられないかと期待をしているが、このままではステージ3あるいはステージ4になるかもしれない。最悪のシナリオとして、感染者が100人を超えることも考えておかないといけない。

現在、医師の管理の下で病院とホテル間の搬送を行っている。しかし、中等症の患者が増え、このままでは病床がひっ迫してくる。次の段階として、ホテルと病院の間に準病院的な施設を作るべきか検討している。自宅療養にならないよう、方法を模索している。

西日本新聞／宿泊支援キャンペーンや飲食支援キャンペーンは、お盆の期間の利用を控えるように呼び掛けるのか。

知事／現在の状況は、ステージ3に近いところ。前回のステージ3では、すでに宿泊キャンペーンの予約が済んでいる場合は、そのまま利用し、新規の予約を止める方法をとった。

この数日間の動きを見ながら、扱いを整理する。

佐賀新聞／県内はデルタ株に置き換わっている。もし、避難所で感染者が出て、クラスターまで発生した場合に備えていることがあれば教えてほしい。

知事／起きないような準備をしている。仮に起きた場合、従来通り病院やホテルに入るような対応になる。

NHK／現時点で時短措置に踏み切る考えはあるのか。

知事／都市部の動きを見ていると、時短措置の効果がどれだけあるのかは懐疑的。まず、時短から取り組む形になっている。これから数日間の状況を見て、検討の中に入れておく。

NHK／数日後に検討するという考えでいいのか。

知事／組み合わせをどうするのかということになる。まん延防止等重点措置も考えてはいるが、これもタイムラグがある。県民とともに取り組める方法を、再構築しているところ。

佐賀新聞／感染者が89人にもなり、これまでと同じように1人1人に疫学調査ができるのか。
知事／この1年半で調査体制も整ったし、調査機器もよくなった。だから、これまでは対応できていた。しかし、現場はぎりぎりのところ。

これまでは、接触者の検査で、陰性の人数が多かった。デルタ株は、接触者全員が陽性になり、さらに調査対象が増えていく。今後の調査方法を悩むところ。

国のデルタ株への向き合い方にも左右される。例えば、都市部でロックダウンのような強い規制やさらに厳しい緊急事態宣言を出す方法、全国的に緊急事態宣言を出す方法もある。しかし、宣言を出すだけでは効果が薄いのなら、加えて何かの施策を打つといった、国の危機管理が問われていると思う。

国からの方向性を示してほしいこと、ワクチンの供給、新しい株が全国に広がらないよう国全体としての戦略を構築するよう期待している。

佐賀新聞／先ほどの「準病院」とは、待機ステーションのようなものを考えているということか。

知事／まだ検討の段階。医師会と連携し、救える命を救うため一番いい方法を検討する。

逡巡せずに、早く受診してほしい。高熱が出たタイミングで受診するようにしておくと、自分の体のためにもなるし、感染を防ぐことにもなる。兆候を見逃さないようにしてほしい。

SAGATOCO というアプリに体温を入れる欄があるので、私は朝昼晩のデータを毎日入れている。県民の皆さんも、この習慣を作ってください。